

令和2年1月24日
17:00~18:00
24時間安心在宅介護のクローバー合同会社

令和2年度 第1回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 介護・医療連携推進会議録

参加者：内海氏（民生委員会長）、森下氏（利用者家族）、松井氏（トトハウス）、山田氏（すずらん訪看：欠席）、鶴飼氏（同和園訪看）、西村氏（醍醐北部地域包括センター）、長谷川氏（同和園居宅）、星野、立脇、嶋田（いづれもクローバー） 記録：嶋田

(1) クローバー挨拶・構成員紹介(別紙あり)

(2) 会議の目的についての説明

「地域密着型サービスである定期巡回・随時対応型訪問介護看護において弊社の提供するサービスの状況等を会議にて報告し、地域で開かれたサービスとすることで質の確保を図るとともに、地域における介護と医療に関する課題について関係者が情報共有し連携を図る」

(3) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの説明(資料 ①)

森下氏：同和園の定巡が無くなった時に、ケアマネージャーさんが他の定巡のサービスなどをご存じなかったような節があった。ぜひともケアマネージャーさんには知っておいて欲しいと利用者としては感じた。

長谷川氏：定巡は事業所によって活動内容が違う。一回30分以上は入れないと言われたり。定巡同士のネットワークで同じようなサービス内容になるような事が必要ではないか。定巡の認識も含めて、事業所そのものもまだまだ広がっていないのは事実。

⇒先日京都市地域密着協の会議に参加させて頂いたところ。市内の事業所も少し増えて、密着協の活動としても定巡にクローズアップした活動を考えようとしている所だった。そうした場も活用していきたい。

(4) 開設から現在までの周知活動について(資料 ②)

周知されていないサービスということで、開設（令和元年8月1日）の1か月前より毎月居宅や地域連携室などを回って周知活動を行ってきた。

(5) 現在までのご利用状況について(資料 ③)

- ・相談件数 29 件
- ・契約数等 17 件

(6) 地域における介護・医療連携についての課題

制度上の設定から「儲からない」と言われる事業所も多い。サービスの入り方の工夫が必要でそのことの理解を得る事も必要。これまで入っていた訪看事業所と新たに連携を結ぶにしても、申請過程に一ヶ月程度の時間が生じてしまい、タイムラグが生じてしまうために断念されるケースもある。

鵜飼氏：タイムラグについて実際に連携契約を結ぶときのトラブルを紹介。介護との連携が必要。週に一回支援に入らないといけないと既存の感覚でいる人が多いのではないか。介護と連携をとる事でそんなに訪問する必要がない事もまだまだある。滞在型と違って、介護と同時にサービスに入る事が出来るのもメリット。

松井氏：地域の方々の話を聞いていると介護の事も医療の事も不安で誰かに相談したいが、相談する先が分からなくて困っている方がたくさんいる印象がある。契約が必要なんだろうが、気楽に相談できる先になってもらえば本当に助かる方がいると思う。包括に行ったら良いということも知らない方も沢山いる。そういう窓口にもなってもらえばいいなと思う。
⇒弊社が出した新聞広告を大事に持っておられる方もたくさんおられるようで、二か月ほど前に直接電話があって今後の自分のために勉強しておきたいと来所された方もおられた。

内海様：高齢者に医療で介護でと言っても理解されない。私のこの体はどうしたら良いんや、といった事も気軽に相談できる先が必要。包括をいつも紹介しているが、そうした相談先のネットワークを構築してもらいたい。

西村氏：気軽に相談してもらえる先としては包括ではあるが、醍醐にも二か所しかない。先日の勉強会において地域密着協の代表者が来られ、今後の地域密着型サービスの形として相談窓口としての役割を話しておられた。包括だけではなく、地域密着型事業所が相談窓口として歩いて行ける距離にあるという環境になるよう期待したいので、広報活動の一部に加えて頂きたい。介護保険サービスは出来て 20 年になり、多様化が進んでおり複雑化している。誰かに相談しないと分からないという状況になっている。

長谷川氏：ケアマネージャーは自ら勉強して多様化したサービス・支援を

知る必要があり、ケアマネージャーによって差が出来ているのも現状。勉強会を継続してお願いしたい。

松井氏：お世話になっているので細かい希望について言えない、相談している事がなかなか前に進まない事についても今までお世話になって来たし言えない、という「愚痴」のような相談もよく聞く。言った方が良い事も沢山あると思うので言いやすい関係づくりを励んでほしいと感じている。

森下氏：医療と介護がこういう連携もされている事を聞かせてもらって、安心感が増した。受診する時にも、介護の感じる日常の異変やそれについての医療のアドバイスも教えてもらった上で行けると本当に助かる。家族が病院についていかないといけないので、地域にはどういう受診先があるのか、どういうサービスがあるのかを常日頃知りたいと思っている。こうした情報も広く提供されると家族としても非常に助かる。

(7) その他

星野：地域密着協に参加して、定巡をしている事業所は本当に少ない。地区によってはゼロのところもあるし、山間部で支援に行けないという場所もある。希少なサービスであるということでとても責任を感じた。定巡だけでなく、相談窓口としての役割や勉強会を継続して実施していきたいと感じた。今後も希少な社会資源として継続してサービスを提供していく様に様々な方のご協力を得て、尽力していきたいと思う。

- ・次回開催は令和2年7月。一年に一回評価が必要なため、アンケートを事前にお配りして、協力を依頼する。

以上